



## 2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月9日

上場取引所 東

上場会社名 保土谷化学工業株式会社  
コード番号 4112 URL <https://www.hodogaya.co.jp/>  
代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 松本 祐人  
問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 毛利 康宏 TEL 03-6852-0327  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第1四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	14,489	44.3	2,842	742.8	3,218	318.5	1,708	362.0
2024年3月期第1四半期	10,041	0.8	337	△66.3	768	△45.2	369	△44.4

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 3,766百万円 (85.7%) 2024年3月期第1四半期 2,027百万円 (38.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	215.12	—
2024年3月期第1四半期	46.63	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	84,213	60,737	59.1
2024年3月期	81,157	57,443	58.8

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 49,772百万円 2024年3月期 47,734百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	37.50	—	37.50	75.00
2025年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	42.50	—	42.50	85.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	48,000	8.4	4,500	13.9	4,800	1.9	2,700	8.8	340.27

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無  
新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期1Q	8,413,726株	2024年3月期	8,413,726株
② 期末自己株式数	2025年3月期1Q	469,343株	2024年3月期	477,374株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年3月期1Q	7,942,438株	2024年3月期1Q	7,930,533株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績は、今後様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項は、決算短信 (添付資料) 3 ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(会計方針の変更に関する注記) .....	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記) .....	10
(追加情報) .....	11
(セグメント情報等の注記) .....	12

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善等により経済活動の持ち直しが見られ緩やかな回復基調となりましたが、円安の長期化に加え、継続している不安定な国際情勢等の影響によるエネルギー価格の高止まり、それらに伴う物価の上昇など、依然として先行き不透明な状況は継続しています。

このような情勢下、当第1四半期連結累計期間において、特に機能性色素セグメントにおける有機EL材料の販売が拡大したことにより、売上高は、前年同期比4,447百万円増(44.3%増)の14,489百万円になりました。損益面でも、主に有機EL材料の販売拡大により、営業利益は、前年同期比2,505百万円増(742.8%増)の2,842百万円となりました。

また、経常利益は、前年同期比2,449百万円増(318.5%増)の3,218百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比1,338百万円増(362.0%増)の1,708百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間の各セグメントの概況は次のとおりであります。

#### [機能性色素セグメント]

イメージング材料事業は、プリンター向け材料の需要が海外を中心に回復し、前年同期比で大幅な増収となりました。

天然色素は、食品業界での需要減少を受けて減収となりましたが、一方で、アルミ着色用染料の需要がスマートフォンやその他汎用品向けを中心に大幅に増加し、色素材料事業全体としては大幅な増収となりました。

有機EL材料事業は、スマートフォン向けに加えタブレット端末向けでの需要が伸長し、大幅な増収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比4,421百万円増(98.5%増)の8,909百万円となりました。

#### [機能性樹脂セグメント]

建築材料事業は、大型商業施設の駐車場等におけるウレタン防水工事の受注により、大幅な増収となりました。一方、特殊化学品事業において、剥離材向け需要が海外を中心に増加しましたが、医薬向けでの需要減少により、大幅な減収となりました。

樹脂材料事業においては、ウレタン材料の在庫調整等の影響が続いており、大幅な減収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比13百万円減(0.7%減)の1,948百万円となりました。

#### [基礎化学品セグメント]

過炭酸ナトリウムが漂白剤向けでの需要減少や主要顧客での生産調整影響等により、大幅な減収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比49百万円減(2.7%減)の1,821百万円となりました。

#### [アグロサイエンスセグメント]

除草剤は、農耕地向けおよびゴルフ場向けの販売時期が前期に前倒しとなったことにより大幅に減少しましたが、家庭園芸向けにおいて主要顧客での一部需要の回復により大幅に増加したため、アグロサイエンスセグメントとしては前年同期並みとなりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比5百万円増(0.4%増)の1,297百万円となりました。

#### [物流関連セグメント]

輸出および国内向け物流事業ともに需要が回復し、大幅な増収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比88百万円増(22.9%増)の477百万円となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末(6月末)における資産合計は、84,213百万円となり、前連結会計年度末(3月末)比3,055百万円の増加となりました。

主な増減要因は、有形固定資産の増加1,200百万円、現金及び預金の増加694百万円、原材料及び貯蔵品の増加510百万円等であります。

負債合計は、23,475百万円となり、前連結会計年度末比238百万円の減少となりました。

主な増減要因は、引当金の減少247百万円、支払手形及び買掛金の減少219百万円、短期・長期借入金の減少196百万円、その他流動負債の増加505百万円等であります。

純資産合計は、60,737百万円となり、前連結会計年度末比3,293百万円の増加となりました。

主な増減要因は、利益剰余金の増加1,403百万円、非支配株主持分の増加1,255百万円等であります。

以上の結果、自己資本比率は59.1%となり、前連結会計年度末の58.8%から0.3ポイント増加しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期の営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益は、期初に公表した業績予想に対して、想定を上回る進捗率となっております。機能性色素セグメントにおける有機EL材料の販売が大きく伸長したことが主な要因ですが、第2四半期以降の需要動向及び金融市場動向に不透明感があり、現時点では期初公表の業績予想を据え置きます。第2四半期以降、修正の必要性が生じた場合は、速やかにお知らせいたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,965	13,659
受取手形、売掛金及び契約資産	12,266	11,891
商品及び製品	7,708	7,413
仕掛品	2,190	2,453
原材料及び貯蔵品	2,736	3,246
その他	827	1,158
貸倒引当金	△18	△23
流動資産合計	38,675	39,800
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,542	9,675
土地	11,733	11,752
その他(純額)	8,390	8,437
有形固定資産合計	28,665	29,865
無形固定資産		
のれん	22	19
ソフトウェア	225	209
その他	310	587
無形固定資産合計	558	815
投資その他の資産		
投資有価証券	10,885	11,142
長期貸付金	145	156
繰延税金資産	364	519
その他	1,881	1,930
貸倒引当金	△17	△17
投資その他の資産合計	13,258	13,731
固定資産合計	42,482	44,412
資産合計	81,157	84,213

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,130	4,910
短期借入金	5,040	5,185
未払法人税等	883	786
引当金	592	354
契約負債	57	8
その他	3,065	3,570
流動負債合計	14,770	14,815
固定負債		
長期借入金	4,346	4,005
引当金	235	226
繰延税金負債	2,253	2,341
再評価に係る繰延税金負債	1,228	1,228
退職給付に係る負債	94	79
資産除去債務	138	153
その他	646	624
固定負債合計	8,943	8,659
負債合計	23,714	23,475
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,196	11,196
資本剰余金	7,933	7,933
利益剰余金	20,660	22,063
自己株式	△1,593	△1,567
株主資本合計	38,197	39,626
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,415	4,587
土地再評価差額金	2,784	2,784
為替換算調整勘定	2,337	2,774
その他の包括利益累計額合計	9,537	10,146
非支配株主持分	9,708	10,964
純資産合計	57,443	60,737
負債純資産合計	81,157	84,213

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	10,041	14,489
売上原価	6,577	7,783
売上総利益	3,463	6,705
販売費及び一般管理費	3,126	3,863
営業利益	337	2,842
営業外収益		
受取利息	46	40
受取配当金	155	158
固定資産賃貸料	14	13
為替差益	227	209
雑収入	32	9
営業外収益合計	475	431
営業外費用		
支払利息	19	19
環境関連整備費	18	34
雑損失	6	1
営業外費用合計	43	55
経常利益	768	3,218
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	8	11
減損損失	—	52
特別損失合計	8	64
税金等調整前四半期純利益	760	3,154
法人税等	228	322
四半期純利益	532	2,831
非支配株主に帰属する四半期純利益	162	1,123
親会社株主に帰属する四半期純利益	369	1,708



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益	532	2,831
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	328	171
為替換算調整勘定	1,167	762
その他の包括利益合計	1,495	934
四半期包括利益	2,027	3,766
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,364	2,316
非支配株主に係る四半期包括利益	663	1,449

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	760	3,154
減価償却費	523	613
減損損失	—	52
のれん償却額	3	3
引当金の増減額 (△は減少)	△238	△216
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	3	△15
受取利息及び受取配当金	△201	△199
支払利息	19	19
為替差損益 (△は益)	△28	△62
有形固定資産除却損	8	11
有形固定資産売却損益 (△は益)	△0	△0
売上債権の増減額 (△は増加)	2,222	442
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△308	△270
仕入債務の増減額 (△は減少)	117	△296
その他の資産・負債の増減額	60	△111
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△17	△332
その他	△115	△113
小計	2,808	2,679
利息及び配当金の受取額	187	180
利息の支払額	△21	△19
法人税等の支払額	△261	△568
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,713</b>	<b>2,272</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△105	△2,750
定期預金の払戻による収入	1,078	458
有形及び無形固定資産の取得による支出	△1,175	△1,605
有形固定資産の除却による支出	△0	△6
有形及び無形固定資産の売却による収入	0	0
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
貸付けによる支出	△16	△34
貸付金の回収による収入	8	16
差入保証金の差入による支出	△31	△14
差入保証金の回収による収入	20	13
長期前払費用の取得による支出	—	△4
その他	△0	—
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△222</b>	<b>△3,926</b>

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△231	△196
配当金の支払額	△0	△0
非支配株主への配当金の支払額	△54	△60
自己株式の取得による支出	△0	△1
リース債務の返済による支出	△34	△33
財務活動によるキャッシュ・フロー	△321	△290
現金及び現金同等物に係る換算差額	268	238
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,437	△1,706
現金及び現金同等物の期首残高	6,708	10,664
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,280	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,426	8,957

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。法人税等の計上区分

(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)については第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性が欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

## (追加情報)

## (取締役等に対する業績連動型株式報酬制度)

## 業績連動型株式報酬 (BBT)

当社は、2023年6月27日開催の第165回定時株主総会決議に基づき、取締役(社外取締役及び監査等委員である取締役を除きます。)及び執行役員(以下「取締役等」といいます。)に対する新たな中長期業績連動報酬として「業績連動型株式報酬制度(BBT(=Board Benefit Trust))」(以下、「本制度」といいます。)を導入しております。

## ①取引の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託(以下、本制度に基づき設定される信託を「本信託」といいます。)を通じて取得され、取締役等に対して、当社が定める役員株式給付規程に従って、当社株式が本信託を通じて給付される業績連動型株式報酬制度です。  
なお、取締役等が当社株式の給付を受ける時期は、原則として取締役等の退任時となります。

## ②信託に残存する自社の株式

信託に残存する自社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度407百万円、123,000株、当第1四半期連結会計期間379百万円、114,665株であります。

## (従業員等)に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

## 株式給付信託 (J-ESOP)

当社は、株価及び業績向上への従業員の意欲や士気を高めるため、従業員に対して自社の株式を給付するインセンティブプラン「株式給付信託 (J-ESOP)」を導入しております。

## ①取引の概要

本制度は、予め当社が定めた株式給付規程に基づき、一定の要件を満たした当社の従業員に対し当社株式を給付する仕組みです。  
当社は従業員に対し、毎年利益に関して一定の条件を満たした場合の利益水準に応じてポイントを付与し、退職時に当該付与ポイントに相当する当社株式を給付します。  
従業員に対し給付する株式は、予め信託設定した金額により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理するものとします。

## ②信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度264百万円、80,000株、当第1四半期連結会計期間264百万円、80,000株であります。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	機能性 色素	機能性 樹脂	基礎 化学品	アグロ サイエンス	物流関連	計				
売上高										
(1)外部顧客に 対する売上高	4,487	1,962	1,871	1,292	388	10,002	39	10,041	—	10,041
(2)セグメント間 の内部売上高 又は振替高	86	48	37	—	357	530	37	568	△568	—
計	4,574	2,010	1,909	1,292	746	10,532	77	10,610	△568	10,041
セグメント利益 又は損失(△)	250	△43	16	66	47	337	0	338	△0	337

(注1) 各セグメントの主な製品

- (1)機能性色素・・・トナー用電荷制御剤、有機光導電体材料、有機EL材料、バイオ材料、各種染料等
- (2)機能性樹脂・・・ウレタン原料、接着剤、剥離剤、ウレタン系各種建築・土木用材料、防水・止水工事、医薬・樹脂材料・電子材料用の各種中間体
- (3)基礎化学品・・・過酸化水素及び誘導品、その他工業用基礎原料
- (4)アグロサイエンス・・・除草剤、殺虫剤、酸素供給剤
- (5)物流関連・・・倉庫業、貨物運送取扱業、ISOタンクコンテナ保管事業

(注2) 「その他」は、報告セグメントに含まれない区分であり、研究受託業務等であります。

(注3) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

(注4) セグメント利益又は損失(△)の調整額△0百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第1四半期連結累計期間(自2024年4月1日至2024年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	機能性 色素	機能性 樹脂	基礎 化学品	アグロ サイエンス	物流関連	計				
売上高										
(1)外部顧客に 対する売上高	8,909	1,948	1,821	1,297	477	14,455	34	14,489	-	14,489
(2)セグメント間 の内部売上高 又は振替高	101	64	26	-	371	563	32	595	△595	-
計	9,011	2,012	1,848	1,297	848	15,018	66	15,085	△595	14,489
セグメント利益 又は損失(△)	2,716	△47	83	△1	90	2,842	△0	2,841	0	2,842

(注1) 各セグメントの主な製品

- (1)機能性色素・・・トナー用電荷制御剤、有機光導電体材料、有機EL材料、バイオ材料  
各種染料等
- (2)機能性樹脂・・・ウレタン原料、接着剤、剥離剤、  
ウレタン系各種建築・土木用材料、防水・止水工事、  
医薬・樹脂材料・電子材料用の各種中間体
- (3)基礎化学品・・・過酸化水素及び誘導品、その他工業用基礎原料
- (4)アグロサイエンス・・・除草剤、殺虫剤、酸素供給剤
- (5)物流関連・・・倉庫業、貨物運送取扱業、ISOタンクコンテナ保管事業

(注2) 「その他」は、報告セグメントに含まれない区分であり、研究受託業務等であります。

(注3) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

(注4) セグメント利益又は損失(△)の調整額0百万円は、セグメント間取引消去であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「機能性色素」セグメントにおいて、52百万円の減損損失を計上しております。